

【 アイルランド経済の成功への道 】

2001 年 2 月 28 日

1 . アイルランド経済の業績

80 年代における経済の停滞から 90 年代にかけて高成長を遂げたアイルランド経済のこの業績はよく知られている。90 年における GDP は 7.8% から 9.8% に上昇し、失業率においても 13.4% から 5.6% へと減少した。農業においてはあまいよい業績は見られないものの、小売業においては目を見張るほどの成長をみせている。GNP は 60 年代と比べると 2 倍以上にもなり、1970 年の失敗により対 GDP129% となってしまった政府債務も、1999 年には 49% となった。アイルランドという小さな国でこれほどの業績を成し遂げられた要因とは一体何であるのだろうか。

2 . アイルランド経済における諸問題

それには大きく分けて 2 つあり、1 つは 1840 年代の膨大な移民によるものだ。これは日本のように経済が人口に依存する国は家庭内消費に重きを置くためであり、またそのような国は輸出に依存するからである。2 つめは産業空洞化によるものだ。アイルランドは以前の 2 倍の製造物をイギリスに輸出しており、それに対しイギリスは 5 分の 1 ほどしかアイルランドに輸出していない (1841 年)。そのためアイルランドでは国際的な貿易競争の達成が重視された。

3 . アイルランド経済の発展と政策

失敗に終わった保護主義をもつ一方で、経済の産業化やヨーロッパの統合が起こった。それらの要因は、とりわけ産業志向他国や輸出業者がヨーロッパ市場に目を向け、提携し、そのため労働問題に対応出来たからである。また金融サービスは急発展し、アメリカ会社におけるコンピューターのサービスはアイルランドに基づいているといえるだろう。供給側から刺激を受けることで需要側は力を維持し、契約の同意につながっているのだ。

海外への投資が下降し始めたとしても、アメリカ経済の発展と共にアイルランドはアメリカからの投資を心から受け入れることができる。これがキーとなり、われわれは海外投資に力を注いでいるといえる。

担当者

望月ゼミナール

経済学部 国際経済学科

渋谷優子